



- 高等学校等における ICTの活用促進
- 学校種間連携の強化
- 英語担当教師及び小学校教師の指導力・英語力の向上

## 当該地域における英語教育の課題

【出典】R4,5英語教育実施状況調査：本県（全国平均）

### ① 生徒の発信力強化と学習意欲の向上

中学生／高校生の英語力が全国値を下回り、目標値50%に到達していない。  
 中3 CEFR A1レベル相当以上 44.5% (50.0%) 高3 CEFR A2レベル相当以上 45.7% (50.6%)  
 パフォーマンステスト実施状況 高 スピーキング・ライティング両方 47.8% (49.8%)  
 <参考> R4 スピーキングのみ 56.0% (-)、ライティングのみ 81.3% (-)

### ② (①に付随する課題として) 言語活動の充実、言語活動を通じた指導の充実

言語活動の実施状況や教師の英語使用状況は全国値を下回っており、コロナ禍の影響が和らいだ現在も状況は改善されていない。  
 言語活動時間の割合 授業の半分以上 中 73.5% (75.1%) 高 59.5% (54.3%)  
 教師の英語使用状況 発話の半分以上 中 62.7% (68.4%) 高 37.8% (39.9%)

## <実施内容>

### ◆ 1人1台端末活用実証事業【中】（課題①）

県内の中学校実働64校のうち、希望する12校の中学2年生約1400名を対象に、英語授業に対話型AIツールを導入し、アウトプットの機会の拡充を図った。学校の実態に応じて活用場面を設定し、継続的に使用することで、生徒のコミュニケーションへの意欲向上とスピーキング力の向上を目指した。事業目的及び検証方法等は以下の通り。

<b>英語学習への意欲向上</b> 対人のコミュニケーションの前段階として、対話練習の機会を確保 ⇒自信をもって対話に臨むことで、コミュニケーションの楽しさを実感、達成感を醸成	<b>英語での発信力強化</b> 授業内外での即興のやり取りとフィードバックの機会の増加 ⇒正しい発音の獲得、表現とその使用場面・文脈への理解促進、学習した知識及び技能の定着
<b>個別最適な学びの実現</b> 個に応じた即時的なフィードバック 豊富なタスクから学習内容を選択でき、個の課題に応じた反復学習可能 ⇒自己の学びを確認しながら見通しを立て能動的に学習する生徒の育成	<b>発信力向上に資する授業創造</b> 「話すこと」、「聞くこと」における生徒の課題や変容を把握 ⇒学習履歴を踏まえた授業改善、言語活動の質の向上やパフォーマンステストの内容の充実

アプリ（ジョイス株式会社「TerraTalk」）の特徴	検証方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校教科書6社に対応（デジタル教科書と同じ音声を使用）</li> <li>・発音クイズや音読チェック等、多様なエクササイズを収録</li> <li>・場面や話題を選択し、AIとの英会話ができる機能を搭載</li> <li>・発話の文字化やキーワードの表示等による対話補助</li> <li>・生徒の発話を録音・蓄積し、流暢さ、即答度、正確性を判定</li> <li>・生徒の英語力をCEFR-Jの指標で診断（実証期間終了後）</li> </ul>	生徒	教師
	①端末活用に対するアンケート（実証前・中・後） ②AIとの対話型タスクによるスピーキング力検証（実証前・後）	授業改善への意識調査（アンケート、実証前・後）

### ◆ 英語指導スキルアップ研修【小・中】（課題②）

英語の授業におけるICTの活用に関する研修を実施した。ICTの利活用が進んでいる県内の中学校から英語担当教員を招き、好事例を共有したり、自校での活用事例について指導・助言を得たりする機会を確保した。また、実際に端末を使用しながら英語授業での活用方法について学ぶ演習の場を設けた。体験を通して活用スキルを身に付けることのできる内容を設定した。

### ◆ 高校教員英語指導力向上事業【高】（課題②）

大学の先生から「生徒の習熟度に合わせた効果的な言語活動」についての説明を受けた後、日本人教師29名、ALT6名がワークショップを行い、授業における英語による言語活動の充実を図った。

## <成果指標に基づく成果及び検証>

・中学生・高校生の英語力	中：44.5% (8.5pt.UP) 、高：45.7% (5.5pt.UP)
・パフォーマンステストの実施状況	高：R5は回数を回答する質問に変更のため、数値なし
・生徒の英語による言語活動の状況	中 73.5%(3.4pt.UP) 高 59.5%(12pt.UP)
・授業における教師の英語使用状況	中：62.7% (0.9pt.DOWN) <span style="float:right">R5英語教育実施状況調査より</span>

### ◆ 課題①に対する成果検証【中】

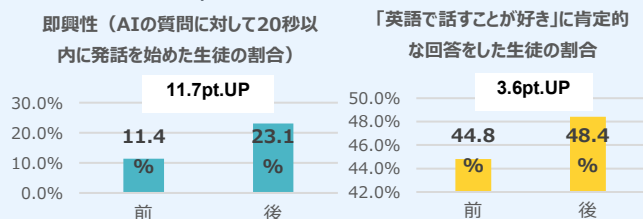
言語活動と関連付けて対話型タスクの活用を進めた学校を中心に、スキル面・情意面ともに一定の成果が得られた。

音読得点70点以上（100点満点） 実施前32.0% → 実施後**74.7%** (**42.7pt.UP**)

スピーキング速度（spm：1分間の発話における音節数）  
160spm以上 前20.3% → 後**25.5%** (**5.2pt.UP**)

「AIとの対話練習をして、実際に外国の人と話してみたいと思った」  
肯定的な回答前 49.1% → 後**51.8%** (**2.7pt.UP**)

「活用を通して、学習方法や学習の仕方を変えた」  
肯定的な回答 前17.9% → 後**20.3%** (**2.4pt.UP**)



AIツール活用によって、学習方法等を見直した生徒がやや増加した。一方、割合は低い。このことから、AIによる判定やフィードバックだけでは生徒の自律的な学習を保障することは難しく、教師のかかわりが不可欠と考えられる。

また、発音タスクや音読タスクよりも、対話型タスクを中心に活用を進めた学校の方が、スキル面の伸びが顕著であったことから、AIとの対話練習により正確性を高めた上で、対人のコミュニケーションを行うなど、言語活動を通じた指導において、端末を用いた練習の場を効果的に設定することが、表現の獲得に効果的であると考えられる。

### ◆ 課題①に対する成果検証【高】

パフォーマンステストの事例を共有し、授業での実践を図り、また、大学の専門家の指導によるワークショップを通して、英語による言語活動の割合の向上にもつながった。

### ◆ 課題②に対する成果検証

スキルアップ研修や研究授業等を通して、言語活動の在り方や工夫について共通理解を図った結果、言語活動時間の割合が向上したと考える。一方で、教師の英語使用状況が年々減少傾向にあることを踏まえると、教師が英語話者としてロールモデルとなり、生徒の英語による自己表現を促すような言語活動の工夫や言語活動を通じた指導の充実が一層必要であると考えられる。

## <今後の方向性>

### ◆ 課題①に対して

1人1台端末活用実証事業を通じた成果等を県内の中学校に紹介する。また、研修を通して、ICT機器の効果的な活用が個別最適な学びの実現につながることに、事例を通して共通理解を図る。例えば、帯活動として、一斉音読やシャドウイング、ディクテーション等をデジタル教科書を用いている学校の取組等を紹介する。既存の活動や教師による指導のうち、教師が担うべきものとICT機器やツールに置き換えた方が効果が期待できるものを精選し、新たな授業デザインを提案できるよう研究を進めたい。

### ◆ 課題②に対して

発信力強化に向けた取組を進めるとともに、県独自のYouTubeチャンネル「せとうち先生スキルアップチャンネル」を通して、授業づくりのヒントや授業改善に役立つ情報を発信する。テーマ別に5分前後の動画を掲載し、各校の現職教育での活用を促したり、研修の事前課題としたりして、視聴の機会の拡充を図る。高校では、生徒にとって授業時間が英語によるコミュニケーションを実践する場になるように、継続して英語による言語活動の割合の向上を図る。

## 成果普及

- ▶ 英語教育における1人1台端末活用実証事業報告（概要）

[https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/gimukyoi/ai\\_jigyouchoukoku.html](https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/gimukyoi/ai_jigyouchoukoku.html)

- ▶ 香川県教育委員会義務教育課公式YouTubeチャンネル「せとうち先生スキルアップチャンネル」

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/gimukyoi/skillupchannel.htm>

